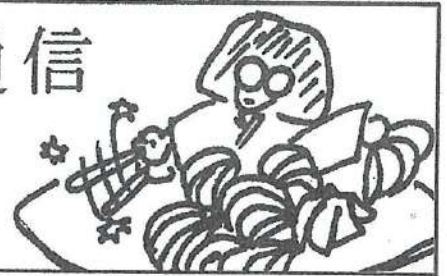


通信

大道芸



編集発行/日本大道芸・大道芸の会 光田 憲雄

(daidogeikib.biglobe.ne.jp) http:// daidougei.seesaa.net

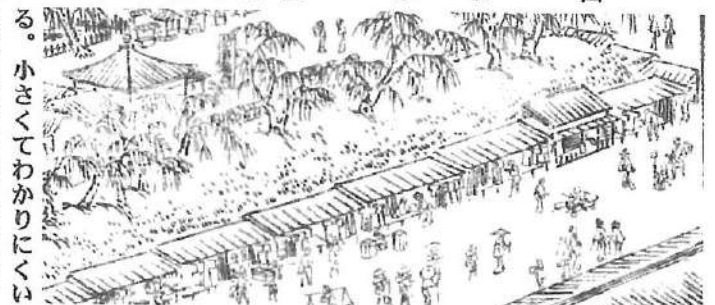
竹馬きれ売りは端布売りである

左記の画は「盲文画話」が載せる「竹馬きれ売り」の画であるが、この「きれ」は「端布」のことであって「反物」ではない。当事の感覚（今も一部残っているが）では、「反物」は「反物」着物一着分の布のことであり、「布」は布から着物分を切り取った後に残る「端布」のことである。ところが最近、「古着売り」と解説してあるものを儘見かけるが、間違いである。まずは本文を読んでみる。

竹馬きれ売

此竹馬きれ売 今も専ら有とき、全体は大風呂敷で包んでいへ共 安永天明の頃は片でいた。その姿が如何にも荷高くして上に包を乗せ 馬のようであった。（それに総体大風呂敷にて覆し故 高 比今は竹馬の名前は残っているが 頭平首の形に似たり 其外今の通り故 馬の形猶相 当したりし 今のは頭平首無しといはむ歟（「盲文画話」）

（意訳）竹馬で運びながらきれを売り歩く竹馬きれ売りはことは左記「盲文画話」の今もあるが、安永から天明（一七七二）八九頃までの竹馬ば短冊状のきればかりである。諸書が「古着売り」と書いている例をまま見るようになった。しかし古着でないもよく目をこらせば、衣紋「古衣服及び古衣を解分て」一年中の賑わいを極む。都人が懸ける近郷近在の老若は、を（解き（「解いて」、襟（部）に懸ける近郷近在の老若は、



い。題して「竹馬古着屋」。

竹貝の四足なるを甘担ふ故に竹馬と云ふ。古衣服及び古衣を解分て 襟 或は察。「古着さえ買えない人達 裡 其他諸用の古物を売る 専ら小戸を専ら巡る也 天保以前 京坂更に古着担 買無し之 天保以来 江戸 風を伝へ 一二夫行之者あり 諸事 近世は 江戸を 京坂に伝へ学ぶ也

（「守貞謄稿」）

竹馬古着屋の字面にこだわって、古着屋と説明する人が多い。しかし右解説の内、左記の部分に注目して

毎年十二月十五、十六の両日

が、右画は「江戸名所図会」が載す「柳原堤」古着屋街の図である。見にくい中で古物（古衣服及び古衣を解分て）一年中の賑わいを極む。都人が懸ける近郷近在の老若は、を（解き（「解いて」、襟（部）に懸ける近郷近在の老若は、

今でもそうだが、たとえ分、或は裡（地）、其他の部古着であつても買う場合は、分に分け諸用の（必要に能く吟味して買う。まして 応じた古物（部分）を売 当事は一生に何枚も買えなる。ということである。

もつと慎重に選んで買うのが 現代の視点ではなく、当 当たり前。偶々行きあつた 事の下層民の視点で見る必 竹馬きれ売りから買うはず 要がある。当事から継続し もない。

だから「きれ売り」なの 六日の年二回、今も開催さ だが、それでも古着という れる、世田谷のぼろ市を見 人は、次に紹介する「守貞 校べれば、大凡見当がつく。 謄稿」の記述を見て貰いた 現在は骨董に限らず、そ 樓六分に荒物三分、おでん、